

神奈川・大和に物流施設

来月 自社最大、初の内陸型

ダイワコーポ

ダイワコーポレーション（曾根和光社長、東京都品川区）は19日、同社最大規模の物流施設、横浜町田営業所（神奈川県大和市）を10月5日に開設する、と発表しました。東京湾岸沿いに拠点展開してきた同社としては初の内陸型施設で、ランプウエー方式も初めて採用。今後、関西、九州への進出や、他の倉庫業者との共同事業なども視野に入れる。

同営業所は、日本生命保険の「ニッセイロジスティクスセンター横浜町田」を1棟借りした。東名高速道路や国道16号保土ヶ谷バイパスに近接し、東京23区や横浜市などの大消費地にスムーズにアクセスでき、川崎、八王子、相模原、藤沢など近郊各市にも1時間以内で到達可能。

また、施設から1キロ以内の徒歩圏内に3駅があり、沿線から広く労働力を集められるほか、周囲に住宅地があるため、パート・アルバイトの確保もしやすい。敷地面積4万1200平方メートル、5階建てで、延べ床面積9万5千平方メートル。ダブルランプウエー方式により



4階までトラックの乗り入れが可能で、45トコンテナトレーラにも対応している。施設入り口からトラック待機場を経由してランプ

ウエーに至る効率的な動線により、搬入時間を大幅に短縮できるよう設計されている。

庫内の有効天井高は5.5メートル以上、柱スパンも11メートルを確保。中央車路型で、最小区画は2100平方メートルと細かく区切れるようにしている。

128台分のトラックバースを備え、バース部分の奥行きは13メートルを確保。テールゲートリフター車や海上コンテナに対応するため各区画にドックレベラーを用意するなど、汎用性のある空間とした。電力容量はロボティクスの導入を想定し、3千キロワットまで対応可能。災害時に備え、非常用発電機も設け、テナントのBCP（事業継続計画）を支える。テナント従業員の通勤用に乗用車127台分の駐車場、オートバイ8台分を含む140台分の駐輪場も完備した。

ダイワコーポは現在、関東を中心として事業展開しているが、今後は関西、九州などの大都市圏への進出も目指す。同社では沖縄県からの高卒者採用を積極的に行っており、将来的には沖縄に拠点を置くことも検討する。更に、同業他社との共同倉庫開発も視野に入れて

（吉田英行）